

高校における国際保健をエントリーポイントとしたESDの推進 ～探求型の学習を深めるための問いの育て方～

オーガナイザー：琉球大学医学部教授 小林潤 会場：文系講義棟103教室

【目的】

- 1) 国際保健をテーマに探求学習を深めていくための基礎的な理論（プロセス）を知る。
- 2) 学校現場で健康をテーマとした探求学習を実践していくための技術を身に着ける。
- 3) 保健分野における高大連携事業における琉球大学へのニーズ把握

Education for Sustainable Development (ESD)は、小学校から大学に至るまでのすべての教育段階において推進されており、新学習指導要領や第3期教育振興基本計画にもESDの目的である「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられています。また、2022年から実施される新学習指導要領では、高校教育の中に「総合的な探求の時間」が設けられるようになりました。高校の教育現場でのESDおよび「総合的な探求の時間」の推進には、生徒が主体的に活動に取り組むことが不可欠であり、そのためには、生徒の自発的な学びを促す「問い」を育てる教師の働きかけが求められます。また、近年、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、世界規模での健康問題が顕在化しており、持続可能な社会の実現を脅かす脅威として、「国際保健」の問題を生徒たちが、これまで以上に身近に考えることができる機会が生じているともいえます。そこで、本ワークショップでは、「国際保健」をエントリーポイントとすることで、健康問題の背景にある社会格差や、人権の問題、文化や宗教の多様性、社会、教育や医療制度等の課題を探求することを通して、ESD及び「総合的な探求の時間」の学びを深めることを目指します。また、そのための教師の働きかけの在り方を、教師自身が様々なワークショップを体験すること絵実践的に学ぶことを目指します。さらに、高校で実施される探求型の授業では、国際開発の中で、保健課題を取り上げた学習が多く見受けられますが、どのような高大連携が得られたら効果的教育が展開できるかについての高校側のニーズを集約したいと考えています。

【プログラム】

1. ワークショップ目的説明（琉球大学医学部教授 小林潤）
2. ワークショップ1 ～国際保健をテーマとしたESD&探求型の学習のススメ～
 - ①新しい学習指導要領における「国際保健」と「総合的な探求の学習」
 - ②グループワーク：「ラクの物語」から読み解く「問いの育て方」
 - ③問いを育てるための極意の解説「5W1HとNo.1は誰だ？メソッド」
(信州大学教育学部准教授 友川幸)
1. ワークショップ2 「問いを育てる」しかけ開発
グループワーク / 教材化のための議論 / 最後の全体まとめ
グループ1：ニュースの記事から（オンライン）
ファシリテーター 神戸大学人間発達環境学研究科助教 喜屋武享
グループ2：地元の問題から（会場）
ファシリテーター 琉球大学医学保健学科講師 和氣則江
グループ3：ディベートから（会場）
ファシリテーター JICA沖縄嘱託専門家 竹内理恵
グループ4：ロールプレイから（オンライン）
ファシリテーター 信州大学総合人文科学研究科 上野真理恵
2. 総合討論 高大連携におけるニーズ